

第12回オーライ！ニッポン大賞受賞者の概要について

【オーライ！ニッポン大賞グランプリ】

NPO 法人 ^{ひがしそん} 東村観光推進協議会（^{ひがしそん} 沖縄県 東村）

グリーン（農業体験）、ブルー（漁業体験）、エコ（自然体験）の各部会が協力し、農漁家や地元ガイドが直接参加者と交流する、「ほんもの」を体験するプログラムを提供している。また、大宜味村や国頭村など隣接する地域とも連携し、広域的な受入体制整備を行っている。

【オーライ！ニッポン大賞】

① 中津川むらづくり協議会（^{いいで まち} 山形県 飯豊町）

農家民宿を中心に地区全体で教育旅行・企業研修の受入や、地域の特徴的な食を活用した体験ツアーを実施。都市と農村の交流を推進することにより、双方が抱える課題の解決を図っている。

② NPO 法人 喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンター

（福島県喜多方市）

喜多方市は平成15年に全国の市として初めて「グリーン・ツーリズムのまち」を宣言。平成17年に同センターが開設され、総合窓口として問合せ、予約、決済等のワンストップサービスを実施している。

③ ^{せら こうげん} 世羅高原6次産業ネットワーク（^{せら ちょう} 広島県 世羅町）

ネットワークに直売所や観光農園など69団体が所属、「持ちつ持たれつ」をモットーに、互いの施設や商品をPRすることで、地域の活性化と交流促進に努め、女性や若者の活躍の場を創出している。

④ NPO 法人 エコ・リンク・アソシエーション（鹿児島県南さつま市）

平成16年から、南薩地域を中心に修学旅行の受入と自然体験活動を軸とした活動を開始、修学旅行の受入は年々増加し、現在は県全域に取組が広がっている。

【オーライ！ニッポン大賞審査委員会長賞】**① 石川県立大学「学生援農隊めぐり」（石川県野々^{ののいち}市市）**

平成 17 年から、棚田保全や伝統行事等のボランティア活動を実施、高齢化した農村地域の振興や伝統文化の継承に貢献している。

② NPO 法人 愛のまちエコ倶楽部（滋賀^{ひがしお}県東近江^{うみ}市）

地域循環・地域自立モデルである「菜の花プロジェクト」を学び体験できるエコツーリズムを実施するほか、地域資源を活用した「田舎もん体験」、「薪ストーブ開発」、「シニアによる梨づくり」などにも取り組んでいる。

【オーライ！ニッポンフレンドシップ大賞】**小川作小屋^{おがわさくごやむら}村運営協議会（宮崎^{にしめ}県西米良^{らそん}村）**

自立・自走の集落運営を目指して平成 21 年 2 月に協議会を発足。公設民営の施設「おがわ作小屋村」では、集落内の食材を中心に小皿 16 枚に盛りつけた「おがわ四季御膳」を提供し、年間 1 万食が出るヒット商品となっている。

【オーライ！ニッポンフレンドシップ賞】**① 鳥羽市エコツーリズム推進協議会（三重^{みえ}県鳥羽^{とよ}市）**

「循環」と「連携」をキーワードに、海を守る間伐、未利用魚の利用、地域の魅力を気軽に知るためのエコツアーカフェなどを行うことで、地域の豊かな自然・歴史・文化の保護や魅力向上を図っている。

② 株式会社西京^{さいきやう}銀行（山口^{しゅうなん}県周南^{しゅうなん}市）

交流人口、定住人口の増加による地域活性化への取組の一環として、全国の大学生を対象とした山口県内の企業訪問と観光を組み合わせたツアーを実施している。

【オーライ！ニッポンライフスタイル賞】

① 畦田 堅持（神奈川県横浜市）

静岡県河津町との二地域居住を初めて22年。地域活性化を目的に「（一社）ルーラル・ライフ」を立ち上げ、空き家を活用したシェアハウスの運営などに取り組んでいる。

② 柴田 さほり（長野県飯山市）

農林水産省の田舎で働き隊の隊員として飯山市に移住、旅行会社での勤務経験を活かし、観光局職員として海外からの誘客に取り組む。

③ 西井 浩隆（愛知県豊根村）

山村留学指導員として、山村留学生の指導のほか、夏・冬休みには都会の子ども達に山村の魅力を知ってもらう取組を実施。

④ 泉谷 勝敏（山口県周防大島町）

妻の実家である周防大島町に移住、「ふるさとライフプロデューサー」として、移住希望者のサポートを行っている。

⑤ 宮城 健隆（沖縄県大宜味村）

定年を機に母親の実家である大宜味村に移住、「自然」や「生活・文化」等の要素を盛り込んだ体験プログラムの提供を行っている。